

第3回住民部会ワークショップを振り返って

WSに参加したきっかけ

- 八千代を明るくにぎやかな町にしたい
- より住みやすい八千代台にしたい
- 自分の町を知りたい
- 意外と知らない事、知らないところがあった
- まちづくりに興味があった
- 八千代台の再開発に関わりたい
- 協議会への参加に誘われ、今までの八千代台はよく知っているが、これからの40・50年に向けて何が出来るか必要かを考えてみたい

WSの感想

- 新しい家も増え、人の流れを感じたが商店は減る一方
- 学校跡地では心が少し痛んだ
- 地下道にまちづくりポスターがあって嬉しかった
- 良く車で通った所に防空壕跡があったことに驚いた
- 八千代台北東について、知らない事が多かった
- 次回も東地区担当になったので魅力を伝えられるようにしたい
- 八千代台西地区の再発見ができた
- 住宅地は相変わらず、静かで落ち着いていた
- 色々な問題があっても、それをどうしたら良いのかわからない
- 久し振りに町内巡回で知人にも何人か会えて楽しかった
- 自分の住む地区の良い点を他地区と比較して見えてきた
- 日頃歩いているが、目的を決めずに再度ゆっくり歩く機会が欲しい
- 子どもの頃遠いと思っていた諏訪神社が身近な憩いの場所になりつつあった
- 今まで何気なく歩いた公園が子供・お年寄り向けの公園である事がわかった
- 市民の森は思っていたより広くて整理されていて京成で分断されていると感じた
- 母校の小学校を久しぶりに見たら雑草等荒れていてショックだったが、遊具はまだ使えそうで生かせないものかとも感じた
- 人が作ったベンチに感動したということが他地区から見た人もやはり感動するものか？と他人目線のおもしろさを感じた
- 自分の住んでいる地域をゆっくり見て歩いたが、住むには良い町だとあらためて感じた
- 公園があるという感想を学生さんから聞いて再認識した
- 通り名とかをつけるというアイデアは勉強になった
- 南地区、日頃気づかない発見があった
- 40数年ぶりに北東地区を周って懐かしかった
- 地区の中でも丁目ごとの横の繋がりが薄い事に気づかされた
- 東地区の範囲が広いので、まだまだ歩き足りない
- 西地区は思ったよりも狭いと思った
- いい所も沢山あり、歴史も感じられた
- 参加している方々の知識がものすごく、色々教えてもらった
- 西地区、東地区は足を踏み入れたことがないので結構新鮮だった
- 閑静な住宅街・公園がある程度整備され、住みやすい町だと感じた
- 継続して発展的にできることを期待している

今後のWSに期待していること

- たくさんの方に参加し、関わってもらいたい
- 出来る事から始めて少しでも町が良くなったらうれしい
- 八千代台の魅力を発見し、伝えて広めていきたい
- あるべき姿のキーワードの共有による展開
- 「神社」と「市民の森」周辺の活用
- 八千代台東第二小学校の跡地、良い活用ができると思う
- 学生の方々に聞きたいです。八千代台に住みたいと思いましたが？住みたくない理由をぜひ知りたいです。これからの八千代に繋がると思います。
- 第4回目以降、八千代台地区の目指す方向性、まちづくりの指針が見えて来ると思う
- 他の地域とどのようにつなげていくのが重要だと感じた
- だんだん煮詰まってきた感じで今後が楽しみになってきた
- 八千代台全体を多方向から見られればと思う
- 短期ビジョン長期ビジョンを考えてやっていきたい
- 他の地区を出来るだけ見てみたい

WSで発言できなかったこと、補足説明したいこと

- ボランティアを募り公園の遊具などのペンキ塗りができたらいい
- 車の多い通学路で歩道のない所は道路に塗装して欲しい
- 少年サッカー用グラウンドの利用方法の改良
- 野村自治会でも毎週木曜日9時より子供の森公園でやちよ元気体操をやっている
- 西口商店街の衰退、店舗の変化、住民の需要により、駅前の雰囲気が変わっている
- 名称：エポラ通りが現状と違う。(エ：エルム/ポ：デパート「ポポ」今はマンション/ラ：家電「ラオックス」今はパチンコ店)
- 子育てやお年寄りが快適になるのは良いが、地元の若者がどうしたら残るようになるのか？6割の人は近隣市に移動している
- 発表するチームが他の発表中に喋りながら打ち合わせをしており、発表者の話を聴いている人にとって迷惑。
- お祭りや催し物をする事で子供もたくさん集まり、若い親御さん達も積極的に参加している
- まだまだ八千代台は捨てたもんじゃ無いと思っており、この「八千代台まちづくりプロジェクト」によって、より住みやすいまちになれるようにしたい
- 歩道橋の老朽化・電柱が多い
- これからどうしたら人口減などの問題解決にもっていくのか疑問
- シニア世代にも、元気な”スゴい人”も実はたくさんいる

次回以降の主な流れ

6月27日(月) 第1回住民部会 ワークショップ(済)	7月12日(火) 18時～ 第2回住民部会ワークショ ップ(済) 【場所】八千代台東 南公共センター5階ホール	7月18日(月・祝) 15時～ 第3回住民部会ワークショ ップ(済) 【場所】八千代台文 化センターホール	8月11日(木・祝) 15時～ 相互まち訪問 【場所】八千代台東南公共 センター5階ホール	9月1日(木) 18時～ 一次資料づくり
○プロジェクトの趣旨説明、年間プログラム、班決めなど	○机上フィールドサーベ(地域の魅力点・問題点等の発掘)	○まち歩き(地域の魅力点・問題点等の発掘)	○一定期間を設けて住民独自にまち歩きを実施	○八千代台地域の魅力点・問題点の見える化
10月上旬 成果の中間とりまとめ	10～11月 八千代台地域のまちづくり コンセプトの検討	11～12月 アクションプラン の検討(1～2回程度)	12月上旬 最終成果のとりまとめ	他部会や行政等と 適宜、連携しながら、 まちづくりに展開します
○子供目線の魅力(八千代よいとこカルタ等)整理	○これまでの成果を踏まえてコンセプト(キャッチフレーズ)を作成	○グループワークで市民や行政が実現可能なプランを検討	○アクションプランを整理し、地域的価値とまちづくりビジョンを市民全体で共有する	

◇お問い合わせ先◇

八千代台まちづくりプロジェクト 事務局 熊谷・齊藤
 電話(熊谷):070-3824-8930 E-Mail:yachiyodai.machi.project@gmail.com
 〒276-0031 八千代市八千代台北 1-12(八千代台自治会事務所内)

発行者:日本大学理工学部まちづくり工学科岡田研究室
 発行日:平成28年8月4日

住民部会ワークショップ 第3回ニュースレター

八千代台まちづくりプロジェクト



八千代台まちづくりプロジェクトによる「第3回住民部会ワークショップ(以下:WS)～まち歩き～」が、平成28年7月18日(月・祝)に開催されました。

第3回住民部会WSでは、日本大学理工学部まちづくり工学科の岡田研究室の学生たちとともに、前回の住民部会WSで抽出した担当地区の魅力や問題点、気になる点について現地を確認してきました。実際のまちでは、防空壕(?)や野馬除け土手などの歴史・文化、千葉県産にこだわった八百屋等、新たな「地域の魅力」がたくさん確認されました。次回は自分の地区から飛び出して、他の地区を巡る『相互まち訪問』を実施します。八千代台地域全体のまちの魅力や問題点をきちんと把握して、新たなまちづくりに貢献していきましょう。

八千代台まちづくりプロジェクトの趣旨

◆プロジェクト実施の背景

わが国では人口減少社会に突入し、地域経済の維持や人口減少問題の克服といった、新たな社会・都市問題に直面したことを背景に、平成26年11月に「まち・ひと・しごと創生法」が制定されました。これを受け、八千代市では平成28年3月に「八千代市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、「絆(つな)がる・創る“和”のまち八千代」を基本理念に掲げ、その実現方策として「八千代台地域活性化人づくりまちづくり事業」を展開することとなりました。そのため、当事業の推進体制として、当プロジェクト「八千代台まちづくりプロジェクト」が発足するに至りました。

◆まちづくりを行うための組織づくり

当まちづくりプロジェクトは、地域の資源・まちを育てる『住民部会』、商売繁盛・人づくり仕事づくりを目指す『商業部会』、まちの分析や事業検討を行う『まち分析部会』の3つの部会で構成しています。(右図参照)

住民部会WS 当日プログラム

7月18日(月・祝)15:00～18:00

【場所】八千代台文化センターホール

1. 開会
 - ◇ 開会のあいさつ
2. まち歩きの説明
 - ◇ 部長あいさつ
 - ◇ まち歩きの注意事項
3. まち歩き
 - ◇ 各地域に分かれてまち歩き
4. ワークショップ実施
 - ◇ まち歩き結果の整理
 - ◇ 学生目線のまち歩き結果の発表
5. 閉会
 - ◇ 閉会のあいさつ
 - ◇ 振り返りシートの記入



図 まちづくりプロジェクトと各部会の位置づけ

住民部会ワークショップ～まち歩き・実際のまちに飛び出して地域の魅力・課題を探求～

前回の住民部会WSでは、住民のみならず日本大学の学生の方々と交えたグループワークにより、担当地区の魅力や課題を発掘してもらいました。様々な方から多くの地域の魅力や課題等を説明いただいたため、みんなで実際のまちに飛び出して地域の魅力や課題の現状確認を行うとともに、意識の共通化を図りました。まち歩き終了後には、担当地区の学生より『学生目線での地域の魅力』について発表いただき、新たな魅力も確認できました。



岡田教授によるまち歩きの説明
 まち歩きの趣旨や現地での視点、注意事項について説明いただきました



まち歩きの実践
 実際のまちに飛び出して WS で発掘した地域の魅力・課題等を探求しました



『学生目線での地域の魅力』の発表
 学生のみなさんがまち歩きを通じて発掘した地域の魅力について発表しました

北東地区 まち歩き結果

① 荒れ果てた空き家通り

- ・空き店舗が荒れ果て放置されている。
- ・シャッターが閉まったままの店舗が目立つ。
- ・空き店舗コミュニティ施設やアンテナショップなどとして利用したい。

② 地産地消の八百屋

- ・千葉県産に拘った八百屋により地産地消が可能である。

③ 特別感のあるケーキ屋

- ・店長の気分でいつ開くかわからない故に開店時に訪れることができたらラッキー!! 珍しい不思議なケーキ屋さん。

④ 医療施設通り

- ・医療施設が一カ所に集まっているためココをさらに強化し、より充実した医療施設通りになれば利便性が向上すると感じた。

⑤ 歴史を感じる職人技

- ・畳を製造する歴史あるお店があるため、歴史的風景を感じながら生業を楽しむことができる。

⑥ 八千代台第一公園

- ・春には桜が綺麗なだけでなく、頭上の木々の枝が屋根代わりとなり日陰ができた下にはベンチやブランコがあり、座ってゆっくり過ごせる。

⑦ 再利用の価値がある元社宅

- ・放置された巨大な県警の元社宅が存在する。公園の隣という立地の良さを生かし、シェアハウス等に活用できないかと考える。

⑧ 誰も気づかない防空壕(?)

- ・警告看板よりも目立つ地下壕を紹介する看板を設置し、まちの魅力としてアピールできないか。

⑨ 小規模農地の有効活用

- ・住宅地に点在する農地を利用して、無人販売所を設置し、住宅地の暮らしをより豊かなものにしたい。

⑩ 八千代台北子供の森

- ・木製のアスレチックで遊ぶ子どもたちを多く眺められ、活気のある壮大な自然公園となっている。



⑪ 利便性に欠ける生活空間

- ・住宅地が密集しているが、周辺に商業施設がないため、多少の不便を感じる空間となっている。



⑫ 八千代台北市民の森

- ・お年寄りの散歩道や犬の散歩道として利用されており健康増進になる。
- ・その一方で、遊具がなく子供があまり遊びに来ないため、お年寄りと子供の世代交流が少ない。年配の方と子供との交流イベントを開催し、世代交流を図りたい。



⑬ 特徴的な避難経路

- ・お年寄りが素早く避難できるよう、避難経路として滑り台が設置されているが、使われていないときの景観の利用として、季節ごとの飾りつけをしてみると面白いと感じた。



⑭ 分別の徹底

- ・住宅地に存在する資源回収BOXの設置をより展開していくべき。



⑮ 高低差によるまちの一望

- ・高台から東地区を見渡せる魅力的な空間だが、見る見られるの関係から、東地区からも見られていることを意識しなければならぬ。

近すぎる京成電鉄

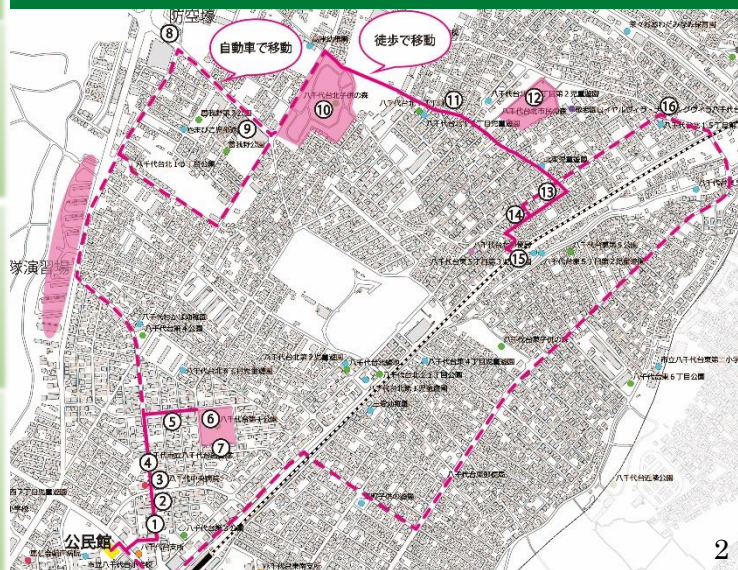
- ・真下に線路が敷かれているため、近隣住民が騒音被害に苛まれている。



⑯ 整ったスカイライン

- ・坂の上からまちの美しいスカイラインを望める。

北東地区のまち歩きルート



東地区 まち歩き結果

① みんなが利用するユアエルム

- ・誰もが利用し、駅前でアクセスしやすい場所である。

② 八千代台一の商店街

- ・エボラ通りは、八千代台の中では大きい商店街で賑わっている。

③ 歩道を狭くする花壇

- ・高齢者が多い町なため、デコボコの花壇を無くし、車イスが通りやすいように歩道を広くしてほしい。

④ 「希望通り」ベンチ

- ・「希望通り」に町内会で制作したベンチがあり、趣がある。
- ・ベンチが点在しているので、休憩スポットになる。

⑤ 寂しくなる空き店舗

- ・商店街から離れるほど、空き店舗が多くなり寂しい雰囲気になっている。

⑥ 歩きにくい歩道

- ・「希望通り」の歩道がデコボコで傾いており高齢者にはとても歩きにくい。

⑦ 「希望通り」のベンチ

- ・小学生が塗装をしたベンチがあり趣がある。
- ・少し劣化が目立っており、改めてこのベンチ制作を再開して、ベンチを増やすことで、ベンチロードといった八千代台の魅力にすべきである。

⑧ 隠れコミュニティスポット

- ・誰もが使える休憩室があり、コミュニティの場となる。
- ・この場合は地区の住民間でも周知されていないためアピールが必要である。

⑨ 賑わいのある東町会館

- ・東町会館はとても多くの利用者数でコミュニティの中心となっている。(年間売り上げ約120万円)

⑩ 静かで緑ある住宅街

- ・住宅の植栽と近隣公園周辺の木々で、緑豊かな落ち着いた空間である。

⑪ 緑に囲まれた近隣公園

- ・野球などができるくらい大きい1周700m程の近隣公園があり、自然も豊かである。
- ・恐竜公園とも呼ばれ、愛犬家が犬の散歩中に集まる場にもなっており、賑わいがある。

⑫ 東第二小学校の有効活用策

- ・廃校になった八千代台東第二小学校の敷地を有効活用すべきである。
- ・校舎は耐震の問題で使用できないが、校庭を活用してメガソーラー事業者を誘致し、その太陽光パネルを屋根として貸し出してもらい、雨天時でも活動可能な場所にするというのではないか。

⑬ 放置されてしまった校庭

- ・八千代市立八千代台東第二小学校の校庭は雑草等で荒れており、維持管理する人がいない。

⑭ 川の再生で水辺空間づくり

- ・以前、まこと幼稚園の空敷地に流れていた川を復活させることにより人の集まる魅力スポットを作りたい。

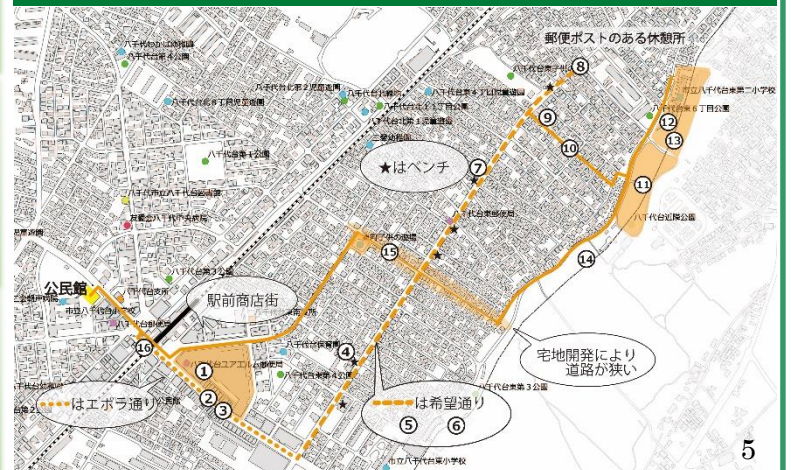
⑮ 宅地開発による危険な歩道

- ・宅地開発により、車の通りが激しい通りの歩道が狭く危険箇所が多い。

⑯ もの寂しい地下通路

- ・地下道は寂しい雰囲気である。
- ・ポスターなどを貼り、賑やかにしつつ、情報発信等にも活用したい。

東地区のまち歩きルート





①地下道の掲示板

・八千代台まちづくりプロジェクトのポスターが張られたことで暗いイメージがあった地下道が綺麗で明るく感じられた。

夜の暗い地下道

・夜は暗く、酔っ払いが寝ていることがある。

老朽化した地下道

・地下道の出入り口付近の手すり等のペンキがはがれて、錆が露出しており、ボロボロなイメージを与えている。



②駅前の空き空間

・駅前に活用されていないスペースがあり、何か活動に利用したい。



③エポラ通り商店街の”多国籍料理店“

・多国籍料理などもあり、飲食店が充実していると感じた。



④エポラ通り商店街の”空き店舗“

・商店街の2階部分などが空き店舗となっており、土日の商店街は人出も少なく活気がない。



⑤エポラ通り商店街の”イベント“

・土日の商店街を盛り上げるためのイベント（現金つかみどり）が開催されており、賑わいが出ている。



⑥店舗の種類に偏りがある

・南地区周辺には、美容室が多いなど、店舗の種類に偏りを感じた。



⑦マンションのオープンスペース

・マンションの敷地の一部が休憩スペースとして整備されており、地域との連続性を感じられた。



⑧八千代台東小学校”ベンチ“

・東小学校では起伏の大きな土地形状を活用したヒューマンスケールのベンチが整備されており使いやすさを感じた。



八千代台東小学校”木漏れ日の空間“

・東小学校のグラウンドの一部は隣接した森林と連続した公園として整備されており、木々に囲まれた木漏れ日の空間が成立していた。



八千代台東小学校”防災施設“

・防災施設として整備されているが、平常時の小学校利用や土日利用を想定するとデザイン性に乏しい。



⑨小学校前の歩道橋

・歩道橋のペンキが剥がれ錆が露出しており、古い印象を受けた。近隣の小学校と地域が協力をして修復作業を行うことで、地域と子供の繋がりを感じ、愛着の持てる場所にしたい。



⑩いちょうの並木

・八千代市と千葉市の並木道の整備方法が異なり、並木道の連続性が途切れている。小学生や住民が植樹を行うことで、改善したい。



⑪見守り通り

・歩道整備が施されていない危険な通りである。
・近所の高齢者が下校時の見守り活動等、地域全体で子供たちを育てる取り組みが行われている。



⑫八千代台保育園

・公会堂や保育園が古いため、両者を統合した建物を設け、駐車スペースを整備することで地域の問題の解決に繋げる。



⑬住宅街の緑の減少

・分譲住宅の開発に伴い、一軒当たりの敷地が狭く、庭のない家が増えているため、住宅街の全体の緑が減少傾向にある。



⑭交流がある南ヶ丘公園

・早朝の元気体操やラジオ体操など地域住民の交流の場として利用されている。
・情報伝達が滞っており、南地区の住民間、面と面を合わせるアナログの対応が必要である。



⑮情報の提示

・植木の開花予報が掲示されており、地域との連続性(人とのつながり)を感じた。



⑯小さな公園

・住宅地内にあるため公園面積が小さく利用しにくい作りとなっている。小さな公園を複数造るよりも、一つ大きな公園を作るなどの工夫が必要である。



⑰八千代市と千葉市の境界

・八千代市側の道路や緑地帯、千葉市側の道路に段差もあり、利用しにくい。昔は水路があったことを踏まえて水辺として復元したり、自然環境豊かな空間にしたい。



⑱貯水池

・貯水池に人が入れないように整備されている。一年に2回程度使用されるが、水がない時に市の活動の場(バスケットボールコート等)として利用したい。



⑲八千代ふるさと50景「野馬除け土手」

・野馬除け土手は、近隣住民でも知らない人が多い。個人の土地であるため、人が立ち入りづらいが野馬土手を眺めるためのベンチ等を設置したい。



⑳市民の森

・利用者が憩える魅力的な空間であるが、実際は利用者が少ない。この場所を活用した虫採取イベント等を行い高齢者と子供たちとの繋がりを強めたい。



㉑交通量の多い通り

・交通量が多く歩道も狭いため危険であるため、交通安全の啓発活動(宮古島まもる君の設置等)を行う必要がある。



南地区歩きルート

